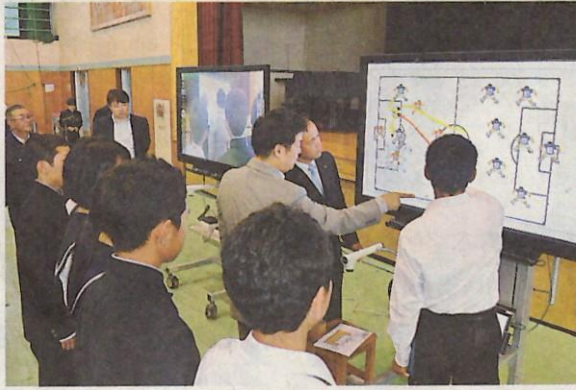


# 中学校に電子黒板など贈呈 掛川の市民団体 情報技術教育を支援

古紙や缶などの資源物の売り払い金で学校教育支援を行う掛川の市民団体「あすな

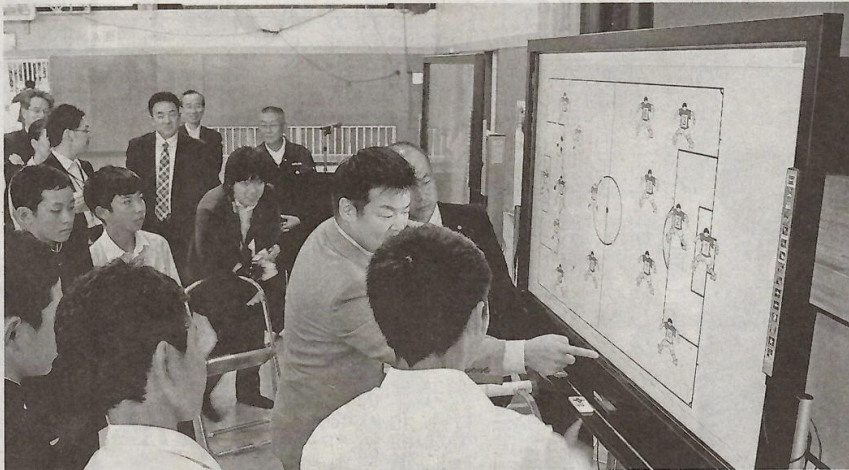


贈呈された電子黒板と書画カメラのデモ操作。掛川市大坂の市立大浜中

る応援団」(松浦昌巳代表)は16日、市立大浜中に電子黒板と書画カメラを各2台贈呈し

た。1年間の活動で得た約100万円で購入。同校で開かれた贈呈式で、松浦代表は「掛川市は情報技術教育に力を入れている。私たちも応援するべく活動を続けたい」とあいさつした。カメラで画像や映像を取り込み、電子黒板の画面に表示するデモ操作も行われた。同校3年の生徒会長大石太陽さん(14)は「頂いた機器を使つての授業が楽しみ。真剣に取り組み、自分たちの力を高めたい」と謝辞を述べた。

# 資源回収益で初の教育支援



贈呈された電子黒板の使い方の説明に聞き入る生徒ら。掛川市の大浜中学で

市民団体「掛川あすなる応援団」(松浦昌巳代表)が、資源物回収活動の収益で購入した電子黒板(60型)二台と付属のカメラ二台(計約百十万円相当)を十六日、掛川市大坂の大浜中学校に贈呈した。(正木徹)

## 掛川の市民団体 大浜中に電子黒板贈呈

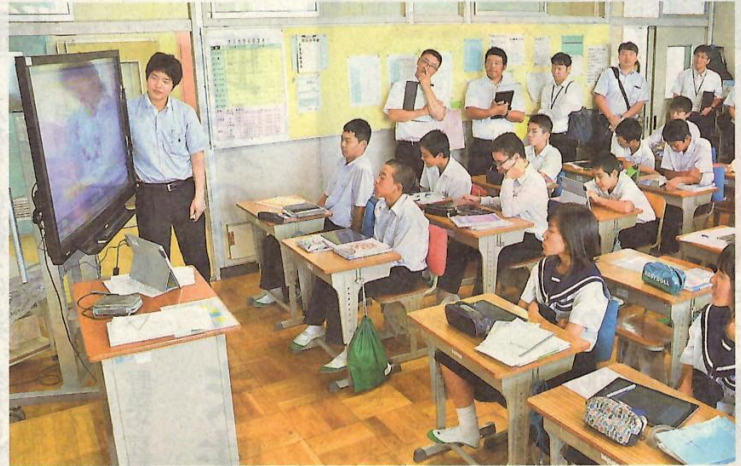
同応援団は昨年三月、るNPO法人「WAKU協力事業所が協定を結んで設立された。道の駅やホームセンター、工場などの協力事業所から古紙類を回収し、収益で市内小中学校のICT機器(電子機器)を使う教育を支援する。大浜中への支援が発足後第一号となった。

電子黒板は、パソコン画面を映せる大型のディスプレイで、画面に字や絵を書き加えたり、情報を保存したりできる。全校生徒(三百二十一人)が出席した贈呈式で、松浦代表が「今後も協力事業所を増やし、支援の輪を広げたい」と述べた。松井三郎市長は「ごみ減量、教育情報化の支援推進に向けて意義深い」とあいさつした。

大浜中学は本年度と来年度の二年間、ICT活用に関する同市教委の指定研究に取り組む。

# 教育デジタル化 地域で後押し

## 古紙など換金、学校に機器



11月21日、掛川市立大浜中  
で開かれた電子黒板を活用した授業

## 掛川の団体 活動拡大

古紙など資源化物の売り払い金で、学校現場へ情報通信技術(ICT)機器を整備。掛川市の市民団体が進める独自の教育支援活動が、開始から2年目で軌道に乗り始めた。今夏に初の機器の寄贈が実現し、協力事業所の数も増えつつある。関係者は「活動の輪を広げ、市全体の資源化物が子どもたちのために役立つ仕組みをつくりたい」と意気込む。

(掛川支局・関本 豪)

9月21日、同市立大浜中で行われた公開授業。2年生の教室の前方に支援活動で配備された60型の電子黒板が置かれた。生徒たちの

タブレット端末から送信された数学の問題の解答が示され、全員で導き方を共有する様子。支援活動事業所と環境分野のNPOで組織する「あす

なる応援団」が2015年3月に始めた。各事業所は日常業務の中で出たり、市民から持ち込まれたりする資源化物を換金。事務局が一元化し、市教委と調整して小中学校へ必要な機器を贈る。

市教委は学校現場でのICTの導入を重視し、各校のデスクトップ型パソコンをタブレット端末へ切り替える作業などを進めるが、厳しい財政状況下での予算確保も課題。民間の後押しへの感謝は深い。山田文字教育長(58)は「子どもたちは支援に心えようという気持ちになるのではなか」と学習意欲向上も期待する。

団体は来春以降に第2弾の寄贈を目指す。協力事業所には近く、地元農協が加わり複数  
の企業からも申し出がある。松浦昌巳代表(51)は「応援団を大きくしていくのが目標。子どもたちが環境や資源について考えるようにもなってくれば」と話す。